

自然ふれあい講座実施報告

環境保全研究所では、自然や環境への理解を深めていただくことを目的に「自然ふれあい講座」を毎年10~12回程度開催しています。本年度は、11回の講座を計画し、8月末までに、6回の講座が無事終了しました。講座にご参加いただいた方々、また、講座の開催にあたって共催や協力、後援をいただいた方々に、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

それぞれの講座はどんな様子だったでしょう？

ここでは、大町市で開催した「くさばなの暮らしを見つめる～ササユリ編～」、長野市で開催した「森の中のホタル～ヒメボタル観察」、茅野市で開催した「草原の管理が鳥たちをよぶ」の様子をご紹介します。

なお、本年度後半には、12月4日（日）に佐久市で「家庭でできる！CO₂ダイエット」、平成24年3月4日（日）に長野市で「月夜の雪原を歩く」を開催します。こちらの講座にもぜひご参加ください！（尾関雅章）

平成23年度 第1回～第6回 自然ふれあい講座 実施状況

テーマ	開催日時	開催場所	参加者数
1 自然史王国信州を歩く～湿原編～	6/12（日） 9:30～12:00	飯綱高原（長野市）	26
2 くさばなの暮らしを見つめる～ササユリ編～	6/26（日） 13:30～16:00	大町山博（大町市）	22
3 森の中のホタル～ヒメボタル観察	7/8（金） 19:00～21:30	飯綱高原（長野市）	29
4 草原の管理が鳥たちをよぶ	7/10（日） 9:30～11:30	車山（茅野市）	11
5 家庭でできる！CO ₂ ダイエット～夏編～	7/24（日） 10:00～12:00	穂高会館（安曇野市）	13
6 高峰高原の草花と昆虫	8/21（日） 9:30～12:00	高峰高原（小諸市）	6

第2回「くさばなの暮らしを見つめる～ササユリ編～」

担当：尾関雅章・横井 力

身の回りの草花たち。その日々や年々の生活-どこでどんな風に生きて活動しているのか-の様子を見つめると、個々の種の不思議で、びっくりするような生活の発見があります。また、絶滅が危惧される植物の場合、その保全にも、こうした暮らしぶりの情報は欠かせません。

今回は、そんな草花の生活に注目する講座の一環として、里山に咲く百合、ササユリを取り上げました。

ササユリは、牧野日本植物図鑑で“なかなか可憐な姿”と紹介される淡い紅色の花を咲かせます。日本固有種で、その学名 *Lilium japonicum* にも“日本の～”とある、日本を代表するユリの一つです。

このササユリ、西日本から本州中部に分布し、長野県内でも主に西部にみられますが、生育地である里山の変貌や採取圧による減少が各地で心配されるようになりました。そのため、長野県では、平成22年度にササユリの保護回復事業計画を策定したところです。

当日は、開花したササユリを見ていただけのほか、直前までやきもきしましたが、無事、市立大町山岳博物館内

で当日開花したばかりのササユリを観察することができました。また、博物館ですすめられてきたササユリの生活史研究の成果にもとづき、実はササユリの花粉は蛾が運ぶこと、そのために、ササユリは午後開花し、蛾を引きつける香りも夕方から夜にかけて強くなることなど、可憐な花に隠された不思議な生活の様子をご紹介します。（尾関雅章）



講座終了後、ササユリに訪花する蛾（ハネナガブドウスズメ）を確認しました

第3回「森の中のホタル～ヒメボタル観察」

担当：北野 聡・岸元良輔

ヒメボタルを環境保全研究所飯綱庁舎周辺で観察しました。ヒメボタルはゲンジボタルやヘイケボタルとは違って幼虫時代も水の中に入らない珍しいホタルですが、その存在は最近まであまり知られていませんでした。今回は、長野県内で精力的にホタルの発生状況調査を行っている「長野ホタルの会」の協力を得て観察会を行うことができました。

当日は19時に飯綱庁舎に集合、周囲が暗くなるまでの間、ヒメボタルに関する室内講義でした。基本的な生活史や発光のしかたなどに加え、飯綱高原では7月中旬に発生のピークを迎えること、夜9時頃が多くの発光を見られる時間帯であること等、講師の長谷川さんにわかりやすくお話していただきました。その頃、外は激しい夕立に見舞われましたが、幸い講義終了とともに雨はほぼ上がりました。

次はいよいよ野外での観察となります。研究所のそばの道路に沿ってしばらく歩きますが、なかなか光が見えません。それでもフワーフワーと光って高く飛ぶゲンジボタルの光を確認。帰り道では、ようやくピカピカッ！

とヒメボタル特有の光が藪の中で確認できました。結局、ヒメボタルは3匹、ゲンジボタル10匹、ヘイケボタル2匹ほどと個体数には恵まれなかったものの、事故も無くホタル3種の観察会を終えることができました。講師の長谷川さんによると、1週間ほどあとにヒメボタル発生のピークが来るのではないかとのことでした（実際に約1週間後に100匹を超える発生があったとのことです）。観察会開催のタイミングの難しさ、道路沿いで観察者の安全確保などが課題として残りましたが、今後も研究所周辺の貴重な自然財産として皆様にも知っていただく努力を続けてゆきたいと思います。

(北野 聡)



ヒメボタルの生態について解説する長野ホタルの会・長谷川久翁さん

第4回「草原の管理が鳥たちをよぶ」

担当：堀田昌伸・須賀 丈・尾関雅章

1960年頃まで、霧ヶ峰の草原は採草地として利用されていました。それ以降は採草地として利用されなくなり、ほとんどの地域で草原の管理が停止した状態でした。しかし、白樺湖に面した斜面の草原（茅野市）では、ほかの地域が手入れをしなくなった後も毎年春先に火入れをしてきました。

草原管理の停止とともに、霧ヶ峰に生息する鳥類相にも劇的な変化が見られました。採草地として利用されていたときには、八島ヶ原湿原の遊歩道沿いではコヨシキリが優占種でしたが、現在では八島ヶ原湿原の周りでコヨシキリを見かけることはほとんどありません。一方、火入れを続けてきた茅野市の草原では、コヨシキリが普通に見られます。

今回の講座では、毎春に火入れをしている茅野市の草原を訪れ、現地でコヨシキリやノビタキ、ホオアカなど草原性鳥類を観察しながら、火入れという草原の管理

によって鳥類相が大きくかわることを解説しました。間近で、コヨシキリがひっきりなしに囀る姿を見ることができ、理解も深まったと思います。そして、火入れなどで草原環境を維持することによって、希少な植物や蝶類なども生育・生息できること、黒ボク土や火入れの歴史などについても話をしました。

また、近年問題になっているシカの食害についても、電気柵の中と外でニッコウキスゲの開花状況が劇的に違うことを見ていただきました。

(堀田昌伸)



コヨシキリのさえずりを聞く参加者